<今回>3472回目 2024年42月225日(月)14時~17時 6021会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p552510、狗奴国の拠点両者は対等位置 より

<前回>346回14目(24-41-829)出席者99名

資料1)~~(2-3-1)~~第3470回(24-41-829)のまとめ(清水)

資料2) 武寧王の墓誌(清水)、百濟人祚氏の墓碑銘(気賀沢、岩田、清水)

~~資料3) 隅田八幡神社鏡銘(古田、榛葉)~~

~~資料4) 朝日新聞1月24日れきし歩き岩戸山古墳(高木)~~

A 報告 強風、雷雨があったが、翌日の10日は良い天気になった。桜はまだ8分どり残り、久しぶりに花見の呼びかけがあり、シートも準備してくれて、お花見気分を味わった。金曜webで服部氏が藤原不比等の過大評価説に疑問を呈する発表があった。各種資料を用いて、説得性が高い発表であった。私は「多胡碑」に不比等の名前が出ていないと質問した。いろんな資料から関西の服部氏が不比等の権力基盤についての考察が論理的だったのを受けて質問した。多胡碑については後日丁寧な紹介を受けた。「羊」は周囲が郡司に任命されたのを疑問視しているのを、打ち消すために、上位3名の最下位(第3位)の不比等の名を出したのは、中央政界で最大の実力者と評価されていたのではないかという意味で質問した。

B資料 通称武寧王墓誌は墓誌と買地券、により成立している。王妃の墓誌は買地券の裏に刻まれている。3年後に改葬されて一緒に葬られた。

かなり古い資料なので、栄山江流域の前方後円墳9か所(古墳名と所在地)の表があった。現在は13箇所以上になっているはずである。韓国の学者は認めがらないので、壊してしまっているものもある。この中で見学したものは光州の月桂洞1, 2号墳である。学芸員が説明してくれた。料-2)その席上、配布を受けた、「百濟祚軍墓碑銘」の解説状況が解説されていたので紹介した。発見当

時、古代「日本」の呼称の最古の金石文と云う報道があった。が祚軍は白村江の占領軍の一員として日本書紀に

も名前が出ている。弟の墓碑は西安から出ていて北京博物館に現在保管されているという。扶桑の文字もある。

660年百濟が滅亡した時に唐に降伏して、唐の下級將軍として、活躍した。出所は北京の古物商から、拓本とし

て出てきたもの、解説の様子が書いてある。最初の公表は2012年3月である。明治大学の気賀澤氏が発表した。

朝鮮の軍將が一族、内陸の西安に墓標があると言うのは、朝鮮問題が片付いて、内陸地の兵隊の長に任命さ

れていたのではないと推定される。封禅の儀の倭国酋長は誰であったか、サチヤマか。

3) 榛葉氏より、隅田八幡神社の順佛画像鏡の解説の原流量として配布された。左文、読み方などの参考になる。

皆で画像を透かして見て、左文の意味を味わった。丁度今、読書している最中である。

書式変更: インデント: 最初の行: 4
字

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 1 字

4) 高木氏が朝日新聞24日の記事を紹介してくれた。新聞記者の文章は巧く現状をまとめている。磐井についで岩戸山古墳が彼の墳墓と確定された経緯や、別区の裁判制度の評価など、話題になった。更に古田先生は「何故「磐井継体戦争はなかった」論に変更されたか、調べるようになった。」

書式変更: インデント: 最初の行: 1 字

読書 朝日文庫版:p54706、九州王朝の領域9行目、なお井上光貞は から

(1) 1) 漢代に始まる志賀島の金印の時代から九州年号の存続による九州王朝の連続性は立証された。隅田八幡神社の人物画像鏡の読み方について、水野裕の説に賛同したが、日十を八月十日の意味に採った。理由は「倭の五王」を日本書紀の允恭にして、癸未年は443年とした。忍坂之夫中津比売を意柴沙加宮とした。「寿」は「泰」である。①字形判定—左右対称に近い。奉か泰の左文か、直後の「遺」は左文である。(左文とは裏返しにした文字の用法、刻むのは困難、左右逆になる。)②対等の論理、従来説は大王・男弟王—天皇、斯麻を配下の人物に当てていた。③「遺」の用例を多数出している。遺(使者)+敬語(奉、朝、献)の動詞。この鏡の場合は取、作の動詞で敬語表現がない。高橋健自氏は念長寿を年長奉と判読して—を奉ると読解した。(在銘最古日本鏡大正3年)がこのような文型は存在しない。敬語は遺の下に来る文例を上げた。九州王朝内部の文章である、宋書の倭の武王の上表文にある、東は毛人55ヶ国、西は衆夷を服する事66ヶ国、計121国が日本列島内の征服国であるという。

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 mm

2) 倭の5王の讃〜武まで、寧所に暇あらず、海北95ヶ国をも征服したと主張している。倭の 5 王たちの主張は南朝鮮、現在の韓国のようにいである。百濟、新羅、任那、秦韓、慕韓、加羅まで入っている。

3) 漢書地理誌には「楽浪海中倭人あり、分かれて百余国」。漢の時朝見するものあり、今、使訳通ずるところ30国(魏志倭人伝)。

4) 倭は 凡百余国あり、漢の武帝、朝鮮を滅ぼしてより、使訳通ずる所30か国許(後漢書、倭伝)と漢書地理誌、後漢書、三国志、宋書、と連続していた、すなわち九州王朝があったことを知っている。だから宋書の倭王武の上表文が121か国の平定を上申している領域は同じである。

毛人55か国とは中国四国の西半分を中心とする領域である。109年以前は百余国、使訳通ずる所30か国許は統合の結果かどうか。

書式変更: インデント: 最初の行: 1 字

5) 30か国の領域と青銅器文化圏 魏志倭人伝のよく知られた9か国とその他の傍国21か国が列挙されている。この範囲は武器型(銅劍、銅矛、銅戈)文化圏と銅鐸文化圏の境界を示しているのではないかと古典的2大青銅器文化圏の図を示した。

(これは出雲の荒神谷と加茂岩倉の青銅器類の発見以前の図であるがそれを入れても成立する文化圏である。(銅鐸についての解釈が重要である。))

~~2024-2-5(月) 14時から17時 601会議室~~

~~2-19(月) 14時から17時 602会議室~~ 5-6(月) 14時から17時 601会議室

~~5-20(月) 14時から17時 602会議室~~

~~6-3(月) 14時から17時 601会議室~~

書式変更: インデント: 左: 6.3 mm